

蔵王地区マップ

旧堀田村の史跡・名所

蔵王地区まちづくり協議会
令和3年(2021)

いいだたてあと
7 飯田館跡

B-4



最上時代、山形城の出城として飯田播磨守が居住した所で二段型の地形をしており、周辺には、本籠、鶴権現、神明神社、大日堂、熊野神社、諏訪神社を祀り、館の守りとしていた所です。又、取り入れ壙跡も一部残っています。播磨守は畠谷合戦(1600年)で戦死しました。

8 八幡神社石鳥居

D-5



凝灰岩製高さ436cm柱は99cmの直立柱でその上に一石よりなる島木と笠木をのせて平安時代末期の造立と推定され龍山佛教文化の繁栄した時代鳴澤口参道入口の象徴として大仁2年(1109)この石鳥居が建立されたと古文書により伝えられ、成沢の空清水より採石された跡が鮮やかに残っています。昭和27年最古の鳥居として国の重要文化財に指定されています。

9 成沢城跡

D-4



永徳3年(1383)斯波兼頼の孫、大極兼義が築城し初代城主となります。山形城南の守り第一線として要害堅固であり重要な城であります。初代大極兼義以来義経、義佑、道忠と続き、最後の城主は氏家尾張守一万七千石といわれ最上家最高の重臣であります。元和8年(1622)最上家改易と共に廃城となりました。この間に240年に亘っています。

なんりんさんこうこくじ
13 南林山 広谷寺

D-5



半郷の名刹安養寺10世の樹山正中大和尚が永正13年(1516)当地三教坂に一寺を開基し安養寺末寺曹洞宗南林山広谷寺と称します。その後宝暦5年、当寺第9世勇山岳英和尚は現在の地に移転し再建します。当時堂宇建立にあたり檜頭三沢庄左工門は私費を投じて大方の盡力をなしたと伝えられます。住職23世 森岡憲宗

14 長栄稻荷神社

D-5



天明4年(1784)佐倉藩第6代藩主堀田相模守正順公は、稻荷大神の信仰甚だ篤く領内の各村豊作祈願のため「長栄」の名を与えられ正順公直筆の社額と善物一巻を奉納されました。天保6年(1835)堀田正篤公の命で神殿を再建祭典資金25両を寄進されました。平成13年10月堀田家12代当主堀田正久公成沢にご来訪され境内に桜の木を記念植樹されました。

15 虚空蔵菩薩尊

D-4



山田村社 宝暦12年(1762)の建立であります。昭和20年4月の山田大火のおりに100米程離れた所より類焼したという不思議な火災に遭っております。その後昭和30年に再建いたしております。

1 蔵王常磐水天宮

B-6



明治12年(1879)常磐橋(眼鏡橋)竣工を機に橋の永久安全を祈願して造営されました。明治23年洪水により橋と共に流失しました。昭和43年常磐橋記・常磐橋碑が出土したことで社殿復元の気運が高まり、桜田・片谷地・下谷柏の地区民の浄戻により昭和45年復元されました。

*三島県令 常磐橋(眼鏡橋) 明治11年4月着工8月完成(同年8月5日落成式) 昭和23年洪水により流出。昭和43年常磐橋を永久橋架橋にともない出土した常磐橋記・常磐橋碑が社殿復元の気運となりました。

4 阿弥陀堂

A-6



宝暦13年(1763)柏倉役所に書上げられたのが初見で、造営の年代は不明である。御本尊は像高34cm横19cmの木彫座像で虫の害がひどく実態は定かでない。明治元年(1868)3月の神仏分離令により熊野神社を本殿阿弥陀堂を拝殿とする届出記録があります。

*阿弥陀堂は阿弥陀寺として堀田13財觀音の第1番に指定されております。

10 成沢八幡神社

D-5



天喜5年(1057)陸奥守源頼義が男山八幡を分遷し戦捷を祈願したと伝えられます。永徳3年(1383)成沢城築城に当たり社殿を現在地に遷座、武運長久を祈願した以後連綿として祭典が行われ明治6年郷社に列せられました。平成11年成沢城跡公園整備を記念して成沢城本丸跡に奥宮を建立し成沢総護神社として崇拜されています。

16 西国三十三所観音菩薩

E-4



縁起としては、五穀成就の守護神、来世安泰一村並に万信者の七難を除き七福を与えるという由来があります。弘化3年(1846)建奉られております。

平成16年6月17日現在地に安置しております。

2 橋守地蔵堂

A-6



坂巻大橋(現常磐橋)が再三にわたり流失したため橋守地蔵様として、安永8年(1779)5月に建立されましたが、約100日後8月の洪水で流失したと記録に残っており、その後のことは不明であるが、歴史ある地蔵堂には相違なく現在まで村内の安全を守護してきたものであります。

5 飯田觀音堂 本籠

B-4



鎌倉時代初期作の觀音像を祀り、境内には福寿山普門寺跡、弘法大師堂、早畝取地蔵堂や供養塔、石碑があり、御祭礼、どんど焼き等の行事には多勢の町民で賑わいます。現在の場所より東方に正觀世音舊跡があるが約280年前に觀音堂があった所で「本籠」と呼ばれています。

11 鳴澤山 常善寺

D-5



龍山三百坊の時代三百坊の中で主要な寺院であった天台宗隆勝寺が常善寺の前身です。三百坊が封鎖された後、成沢の沢内に降りた第二の龍山仏教の中心となって隆勝寺が百数十年に亘り興隆したと伝えられ、宝徳3年(1451)加賀國大槻谷よりきた諸國行脚の僧無量坊により宗門を改め淨土真宗常善寺としました。住職20世 大槻英順

3 村社 熊野神社

A-5



創立は元禄年間甚右工門なる人が紀州熊野權現より分したとの言い伝えがありますが定かではありません。明治元年神仏分離令により當神社を本殿阿弥陀堂を拝殿として届出、明治5年(1872)村社に列す、昭和27年(1952)宗教法人熊野神社と改められました。

*推定樹齢300年以上といわれる幹周り6.5mの大木あります。

6 集石板碑10基

A-4



土地区画整理事業により現在の位置に移転しましたが、以前は、畑の一角や畦道に点々と建立していたものであります。湯殿山塔、龍山塔、天照大神宮、ゆ伽大權現、百万遍供養塔、庚申塔などがあり、庚申塔は、その年の初庚申の際に講者により崇拝されています。

12 金澤山 源福寺

C-5



寺伝に鎌倉の昔、当村館山の西麓に淨樂寺と言われる寺ありき、年久しく頽廃していたが嘉元3年(1305)出羽国時宗本山天童佛向寺より時阿沢山上人巡錫に及び淨樂寺跡に一遍上人の御旨に基き一何宗派時宗の教化を垂れ一宇を建立し当山を開基せりと伝えられています。鎌倉時代の造顕とされる立派な阿弥陀如来像をまつる淨土宗の古刹であります。住職41世 鈴木好善

18 姥神

E-3



大変珍しい石仏として見出されたが、年代等不明です。龍山道中にあったものを3回移動し現在地に安置しております。姥神は水辺に立って幼童を救い、靈山へ女人登拝はここまでと示しています。



E-5

祭神は速須佐之男命(スサノオノミコト)。江戸末期の文化9年(1812)の模札から当時村の鎮守神として奉られたものと思われます。現在も村社として毎年4月に春祭りの神事をとり行われており、平成2年の屋根替えには世話をを中心に行中の寄付を募っています。別当、日光院。



G-6

茂吉の生家の隣りにあり茂吉と深い関係にある浄土宗寺院。境内には茂吉の墓がありますが、少年時代に茂吉に学問を教えた佐原隆応和尚の墓と並んで建立されています。

また、本堂左側に「赤光」の中の絶唱「死にたまう母」の中の一首「ど赤き玄鳥……」歌碑が建立されております。



E-5

貞治2年(1363)無着妙融大和尚の開山 曹洞宗 大本山總持寺の直末36門跡の一つ、県内外に十指に余る末寺を有しています。県重要文化財指定の銅造聖観音立像は奈良時代の作。最上三十三觀音巡礼始め光姫の乳母信夫と姉の安養尼尼との物語を秘めています。



E-5

高湯(現蔵王温泉)への湯治客や蔵王に登拝する人々の歩いた高湯街道の古街道はこの橋から川添いに登った。山形うるおい100景の一つにあげられた松尾川の清流に架かる橋は昭和62年に掛け替えられています。



E-5

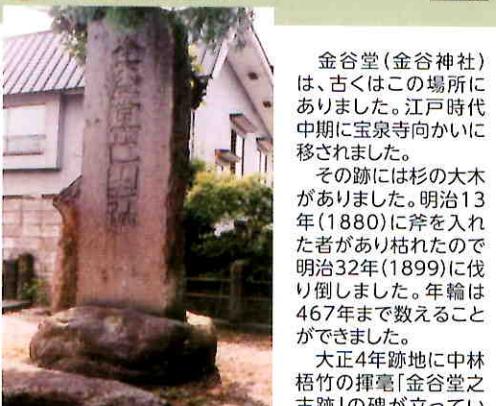
御祭神・秋葉大権現の総本山は、静岡県周知郡春野町。寛成11年(1799)半郷村が大火に襲われ焼け野原となつた4年後の享和3年、火防祈願の為総本山より勧請して村の丑寅方位地に堂宇を建立し秋葉大権現と称し奉祀されました。御神体は、「江戸の左甚五郎・出羽の音松」と言われた半郷生まれの名工栗野音松の作であります。



F-4

蔵王登山口にあり、最上三十三觀音第9番札所、行基菩薩開基の伝説あり、堂は方三間の宝形造り室町時代の古風な様式が保たれている建造物として国の重要文化財に指定されています。内部の板張りに天正19年(1591)慶長14年(1609)の墨書きが残っています。

本尊の十一面觀音と勢至菩薩の2基共3mを上回る大きな木像であります。

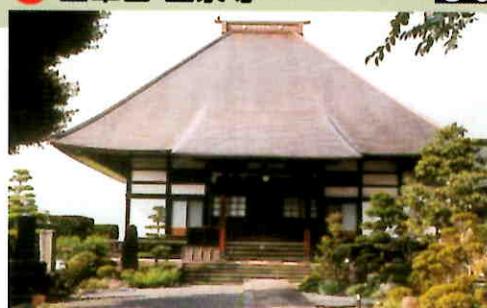


G-6

金谷堂(金谷神社)は、古くはこの場所にありました。江戸時代中期に宝泉寺向かいに移されました。

その跡には杉の大木がありました。明治13年(1880)に斧を入れた者があり枯れたので明治32年(1899)に伐り倒しました。年輪は467年まで数えることができました。

大正4年跡地に中林梧竹の揮毫「金谷堂之古跡」の碑が立っています。



G-6

茂吉の生家の隣りにあり茂吉と深い関係のある浄土宗寺院。境内には茂吉の墓がありますが、少年時代に茂吉に学問を教えた佐原隆応和尚の墓と並んで建立されています。

また、本堂左側に「赤光」の中の絶唱「死にたまう母」の中の一首「ど赤き玄鳥……」歌碑が建立されております。



F-3

鎌倉時代の頃に橋として利用されたものと推測されます。南北両側に沢にはさまれ、西に向かって舌状に張り出した山頂上部に立地し、現在では空堀と堀切の状況が比較的良好に残っており、当時の橋の大きさ等が推測されます。



G-2

旧高湯村入口に建立されたもので、嘉永2年(1849)初代孫七が書したもの。「一切衆生平等利益」の教えを説き、村人の繁栄と旅人の安全を願ったものと思われます。この他、同じものが庵寺にもあります。



E-5

貞治2年(1363)無着妙融大和尚の開山 曹洞宗 大本山總持寺の直末36門跡の一つ、県内外に十指に余る末寺を有しています。県重要文化財指定の銅造聖観音立像は奈良時代の作。最上三十三觀音巡礼始め光姫の乳母信夫と姉の安養尼尼との物語を秘めています。



E-5

高湯(現蔵王温泉)への湯治客や蔵王に登拝する人々の歩いた高湯街道の古街道はこの橋から川添いに登った。山形うるおい100景の一つにあげられた松尾川の清流に架かる橋は昭和62年に掛け替えられています。



E-5

御祭神・秋葉大権現の総本山は、静岡県周知郡春野町。寛成11年(1799)半郷村が大火に襲われ焼け野原となつた4年後の享和3年、火防祈願の為総本山より勧請して村の丑寅方位地に堂宇を建立し秋葉大権現と称し奉祀されました。御神体は、「江戸の左甚五郎・出羽の音松」と言われた半郷生まれの名工栗野音松の作であります。



F-4

蔵王登山口にあり、最上三十三觀音第9番札所、行基菩薩開基の伝説あり、堂は方三間の宝形造り室町時代の古風な様式が保たれている建造物として国の重要文化財に指定されています。内部の板張りに天正19年(1591)慶長14年(1609)の墨書きが残っています。

本尊の十一面觀音と勢至菩薩の2基共3mを上回る大きな木像であります。



G-6

金谷堂(金谷神社)は、古くはこの場所にありました。江戸時代中期に宝泉寺向かいに移されました。

その跡には杉の大木がありました。明治13年(1880)に斧を入れた者があり枯れたので明治32年(1899)に伐り倒しました。年輪は467年まで数えることができました。

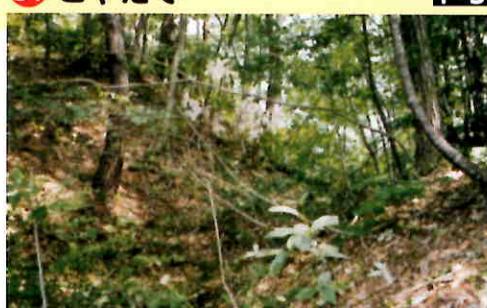
大正4年跡地に中林梧竹の揮毫「金谷堂之古跡」の碑が立っています。



G-6

茂吉の生家の隣りにあり茂吉と深い関係にある浄土宗寺院。境内には茂吉の墓がありますが、少年時代に茂吉に学問を教えた佐原隆応和尚の墓と並んで建立されています。

また、本堂左側に「赤光」の中の絶唱「死にたまう母」の中の一首「ど赤き玄鳥……」歌碑が建立されております。



F-3

鎌倉時代の頃に橋として利用されたものと推測されます。南北両側に沢にはさまれ、西に向かって舌状に張り出した山頂上部に立地し、現在では空堀と堀切の状況が比較的良好に残っており、当時の橋の大きさ等が推測されます。



G-2

旧高湯村入口に建立されたもので、嘉永2年(1849)初代孫七が書したもの。「一切衆生平等利益」の教えを説き、村人の繁栄と旅人の安全を願ったものと思われます。この他、同じものが庵寺にもあります。



E-5

貞治2年(1363)無着妙融大和尚の開山 曹洞宗 大本山總持寺の直末36門跡の一つ、県内外に十指に余る末寺を有しています。県重要文化財指定の銅造聖観音立像は奈良時代の作。最上三十三觀音巡礼始め光姫の乳母信夫と姉の安養尼尼との物語を秘めています。



E-5

高湯(現蔵王温泉)への湯治客や蔵王に登拝する人々の歩いた高湯街道の古街道はこの橋から川添いに登った。山形うるおい100景の一つにあげられた松尾川の清流に架かる橋は昭和62年に掛け替えられています。



E-5

御祭神・秋葉大権現の総本山は、静岡県周知郡春野町。寛成11年(1799)半郷村が大火に襲われ焼け野原となつた4年後の享和3年、火防祈願の為総本山より勧請して村の丑寅方位地に堂宇を建立し秋葉大権現と称し奉祀されました。御神体は、「江戸の左甚五郎・出羽の音松」と言われた半郷生まれの名工栗野音松の作であります。



F-4

蔵王登山口にあり、最上三十三觀音第9番札所、行基菩薩開基の伝説あり、堂は方三間の宝形造り室町時代の古風な様式が保たれている建造物として国の重要文化財に指定されています。内部の板張りに天正19年(1591)慶長14年(1609)の墨書きが残っています。

本尊の十一面觀音と勢至菩薩の2基共3mを上回る大きな木像であります。



G-6

金谷堂(金谷神社)は、古くはこの場所にありました。江戸時代中期に宝泉寺向かいに移されました。

その跡には杉の大木がありました。明治13年(1880)に斧を入れた者があり枯れたので明治32年(1899)に伐り倒しました。年輪は467年まで数えることができました。

大正4年跡地に中林梧竹の揮毫「金谷堂之古跡」の碑が立っています。



G-6

茂吉の生家の隣りにあり茂吉と深い関係にある浄土宗寺院。境内には茂吉の墓がありますが、少年時代に茂吉に学問を教えた佐原隆応和尚の墓と並んで建立されています。

また、本堂左側に「赤光」の中の絶唱「死にたまう母」の中の一首「ど赤き玄鳥……」歌碑が建立されております。



F-3

鎌倉時代の頃に橋として利用されたものと推測されます。南北両側に沢にはさまれ、西に向かって舌状に張り出した山頂上部に立地し、現在では空堀と堀切の状況が比較的良好に残っており、当時の橋の大きさ等が推測されます。



G-2

旧高湯村入口に建立されたもので、嘉永2年(1849)初代孫七が書したもの。「一切衆生平等利益」の教えを説き、村人の繁栄と旅人の安全を願ったものと思われます。この他、同じものが庵寺にもあります。



E-5

貞治2年(1363)無着妙融大和尚の開山 曹洞宗 大本山總持寺の直末36門跡の一つ、県内外に十指に余る末寺を有しています。県重要文化財指定の銅造聖観音立像は奈良時代の作。最上三十三觀音巡礼始め光姫の乳母信夫と姉の安養尼尼との物語を秘めています。



E-5

高湯(現蔵王温泉)への湯治客や蔵王に登拝する人々の歩いた高湯街道の古街道はこの橋から川添いに登った。山形うるおい100景の一つにあげられた松尾川の清流に架かる橋は昭和62年に掛け替えられています。



E-5

御祭神・秋葉大権現の総本山は、静岡県周知郡春野町。寛成11年(1799)半郷村が大火に襲われ焼け野原となつた4年後の享和3年、火防祈願の為総本山より勧請して村の丑寅方位地に堂宇を建立し秋葉大権現と称し奉祀されました。御神体は、「江戸の左甚五郎・出羽の音松」と言われた半郷生まれの名工栗野音松の作であります。